

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371400959		
法人名	有限会社 サン		
事業所名	グループホーム よろこび 1F		
所在地	愛知県名古屋市長区桶狭間北3丁目902番地		
自己評価作成日	平成21年9月16日	評価結果市町村受理日	平成21年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市長区松原町一丁目24番地S101号室
訪問調査日	平成21年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「グループホームよろこび」は、母体組織が病院ということもあり、介護における医療面でのケアが特に充実していると考えています。人工透析をされている方にも、隣接する協力医療機関である透析センターで、透析を受けて頂けます。また職員の教育にも力を入れており、認知症・拘束・虐待等の講習、勉強会を独自に開催したり、セミナーや研修にも参加できる環境を、積極的に作っています。

関連施設が2施設隣接しており、情報交換・緊急時の対応も協力し合える体制にあります。

運営理念は、職員一同 よ…寄り添いながら ろ…老後の こ…心を癒し び…美風ある住とする を共有、実践し入居者様に、明るくゆったり生活できる空間作り心がけています。

地域に根付いたホームを目指し、高齢者の介護に関する市民講座を開催し、多数の参加を頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

協力医療機関ら医療連携体制の充実、利用者・家族にとって安心できる心の拠り所である。管理者は、職員の要望や意見を聞き入れ、一緒に話し合いながらケアサービスに取り組んでいる。また、職員間の人間関係も良好であり、ホーム全体があたかな雰囲気である。利用者も穏やかに生活されていて、安全を確保されつつ、自由な暮らしが何える。職員に向けての年間研修や地域へ向けての市民講座開催や体験学習受入等、認知症への理解や支援に向けて、積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は、よく目につく玄関に掲げられており、毎朝の申し送り時に唱和し、全員が理解し実践している。	運営理念である「寄り添いながら、老いの心を癒し美風のある住とする」を毎朝、職員全員で唱和し、理解共有して、利用者の尊厳とプライベートを大切にしながら実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には、散歩やスーパーの買い物などを行っている。また、地域の行事に参加させて頂いたり、歌や踊りのボランティアに来て頂いている。	2か月に1度、管理者の知人である、カラオケの先生を呼び、歌いながら体を動かしたり、隣人のボランティアと折り紙や雑巾を作ったり等を行っている。毎年の母の日に桶狭間小学校の生徒の訪問があったり、有松中学校2年の職場体験学習の受け入れも行った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を理解していただく為の講座を、施設や地域の集会所等で開催し、また回覧板に掲載して頂き、地域の人々、家族の方に参加を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の頻度で、開催出来ている。町内会長・民生委員・老人会長に参加して頂いており、報告や話し合いを行っている。	2か月に1度町内会長・民生委員・老人会長・家族の参加を得て開催している。参加者の仕事の都合もあり、土曜日から日曜日の開催なので、行政関係者の出席が叶ってない。今後は何回は日曜の変更の検討を考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政主催の連絡会には必ず出席しており、社内にも展開している。日頃より疑問点などは、気軽に問い合わせるなど、距離をおかない協力関係を心がけている。	行政機関主催の会合に必ず出席し、独自で市民講座を開催したり、アンケートを取ったりした資料を、行政に報告する等、サービスへの取り組みを伝えている。	医療機関の充実したホームなので、行政機関に見て欲しい、というアピールする意味も含め、市町村の距離が離れることなく、協力してサービスの向上に期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を行っており、具体的な事例を事務所に掲示してある。	職員全員が身体拘束のないケアを理解する為に、何度も勉強会に参加し、事務所内のよく目に付く所に張り出し、ケアを実践している。身体拘束のみならず、言葉の拘束にも配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、虐待防止に関する研修会に参加しており、職員全体に展開している。表面に出にくい虐待にも気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議の講義のテーマとして学習し、概ね理解できた。また必要がある場合は、活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、事務サイドで十分説明を行い、納得を頂いている。改定等の際は、書面で事前にご家族様に知らせ、理解・納得を図り、疑問点はその都度、十分な対応に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、家族の意見等を聞ける体制にあり、また専用ノートを設け利用者からの苦情を書きとめ、スタッフ全員で対応策を検討し、会議を通じ全グループ施設に展開している。また入居の際には、公的苦情申立機関の説明も行っている。	意見箱を設けたり、家族の面会時に意見苦情を聴き、その為の専用ノートを作り、職員全体で対応・対処し運営に反映されている。意見や要望・苦情等は、外部機関に申し立てる事が可能な旨の説明も行っている。	どんな些細なことでも、家族からの連絡や要望に対して、職員間の申し送りを徹底し、確実に伝わるような体制づくりを望みたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議・管理者会議にて職員の意見等を聞いて、話し合いの上出来る限り反映させる様、努めている。	職員の聴き取りから、管理者・リーダー・スタッフの関係が良く、何でも言い易い職場であることが分かる。月1回の会議時に出された提案等の意見交換を行い、できるだけ反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	情意・能力・業績等の基づいた給与査定制度を実施しており、向上心を持って働ける環境づくりに、努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修・講習等の情報を玄関のホワイトボードに掲示し、各個人にあった研修を勧めている。新入社員には、専用のオリエンテーションを行っている。また毎月の会議において、その時々が必要と思われるテーマを定め、全員に教育している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市認知症高齢者グループホーム協議会に加盟しており、主催する研修などに参加を促し、グループディスカッション等の場を通じ交流の機会を得ている。また近隣のGH施設の代表者とは、相互訪問できる状況にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えはその都度、またお茶、レクの時間など少しリラックスしている時間などに、納得のいくまで時間をかけ聞き、本人の安心を得るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設内での様子などを報告すると共に、要望等に耳を傾け、家族の一員として接する事により、より良い関係づくりが出来ると思い、そのように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、利用開始前に必ず本人と面接し、管理者・ケアマネを含め、その利用者・家族等が一番必要としているサービスを見極め、柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりと関わりを持ちながら、喜怒哀楽を共にする事で、信頼関係を築き、また掃除・食事の支度等一緒に行い、一方的にならない関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便りや面会時に、本人の様子を伝え合いながら、意見交換し共に支援していく対等な関係を築けるよう、努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人が訪問された時は歓迎し、次回も訪れやすいよう、心がけている。	利用者のこれまでの人生に関わってきた場所や知人・友人を大事にし、友人が訪問した時には、快く迎え、次回からも訪ね易い様に、心配りをしている。また、行きつけの場所への続けて行けるよう、働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクやクッキングなどを通じ、孤立する事の無いよう、支援しているが、他の利用者に関心な方もおられるので、困難な場合も有る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族より相談の電話等があれば、親切に対応するようにしている。また、相談しやすい環境を作るよう、努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や行動から、本人の意向や希望を探り把握し、それらを反映させるよう、努めている。	職員は担当者制にして、利用者の意見・要望を会話や行動の中から見つけ、叶うように努めている。時には他のスタッフや家族より情報を得ている。食事を利用者と一緒に摂り、寄り添う時間をもっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式も一部利用した個人ファイルや、家族からの情報、また日々の生活から読み取り、把握することによって、サービスの向上に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの様子は介護記録をつけ、申し送りにより、職員で情報を共有している。気づいた点についても、反映させる様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごと、又状態によってはその都度、本人・家族・ケアマネ及びスタッフと話し合い意見交換し、現状に即した介護計画を作成している。	毎日のケア記録を、A.B.Cで評価し、それを集計して、本人や家族とも話し合い、3か月毎の介護計画の見直しに反映している。緊急時は、その都度行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は介護計画をもとに実践し、A・B・Cで評価し、気づいた事などを記録している。職員間では申し送りで、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	診察を兼ね作業療法を利用し、一人ひとりに合ったサービスの提供を行っている。また、医療での対応が必要と思われる時は、ご家族とも相談し援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩コースに最適な大池や桶狭間古戦場公園がある。また町内会の盆踊り大会等の行事や清掃活動に参加したり、近隣のスーパーに買い物に行ったり等の支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携が整っており、適切な医療が受けられる体制になっている。定期受診・検診も実施されている。医療連携先はグループ企業であり、認知症専門医もいる。	利用者本人や家族の希望の病院(かかりつけ医)への受診への付き添いも、家族が行えない場合は、職員が行っている。協力医療機関もホームの近くにあり、定期受診や検診も受けられる体制になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の方がみえた時や職員の看護師に、気づいた点等を、相談し指導を頂き、適切な対応・対処に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が、常に病院との情報を得よう努めており、それらの情報を申し送り、記録等で各スタッフで共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、「重度化した場合の対応方針」の同意書を頂いており、チームで支援に取り組む体制作りにも、努めている。	現状、重度化すると病院へ転院され、看取りまで希望された事例はない。事業所として、ターミナルケアの希望があれば、対応していきたいと、受け入れ態勢作りに取り組んでいる。	医療関係の充実している中で、今後家族よりターミナルケアの希望が出て来るとして、職員全体で、本人と家族の安心と納得が得られるように、方針に共有されその態勢づくりを整えられることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議等で初期対応の訓練・勉強をしている。隣接するグループ施設にはAEDを設置しており、扱い方を学んだ。また、緊急連絡網の活用で管理者・看護師の指示を受けられる体制を整えている。救急対応があった場合は、会議で状況報告をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、夜間想定など状況別の、防災・避難訓練を実施し、備えている。また自動通報装置の設置に伴い、近隣住民の協力を得ている。	近隣には口頭でお願いしたり、裏のお宅に自動通報装置のお願いをしている。施設内に、水・おにぎり等の備蓄も準備してある。訓練も合同で夜の設定にしたりして行っている。年2回の訓練の内1回は、消防署の協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	歩んでこられた人生、環境を十分に尊重し、現在の状態を把握し、言葉がけにもプライドの尊重を、心がけている。	利用者の今迄歩んできた人生や個人の人格、性格を理解し大事にし、事務所の都合に合わせる事もなく、それぞれのペースに合わせる様に、努めている。人生の先輩である事を念頭において、言葉掛けも慎重にするよう、心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶を飲んでいる時などに、何が好きか何がしたいか等希望を聞き、出来る限り一人ひとりの意思・意見にそよう、努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの意見を尊重し、希望にそって支援しているが、場合によっては、困難な事もありうる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度、理美容の方に来て頂き、希望者に整髪をして頂いている。また服装はご自分で決めて頂き、出来ない方は、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の中に職員を配置し、一緒に食事をしている。またお手伝いが出来る方には、調理・配膳・片付け等、一緒に行っている。	利用者の好きな物を聞き、月に何度かのクッキングの日を設け、一緒に作り食事の時間が楽しくなる工夫をしている。できる事をできる人が行うという方針で、配膳や片付け等を職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量等、毎日チェックし記録している。また、水分量の目安表があり、一人ひとり把握し、注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず行い、ご自分でされる方もそばで見守り、足りないところは介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェックをし時間による誘導で、出来る限りトイレで行えるよう、支援している。	できる限り、排泄の自立を持続するようにする目的で、一人ひとりのパターンを把握し、誘導をしているが、その際にもプライバシーにも配慮し、大声で声掛けしない様になっている。施設内で、紙パンツから普通の下着へと格段の向上した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	いつ排便があったかを記録している。トイレ介助では状況により腹部マッサージをしている。やむを得ぬ場合には、座薬等を使っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には曜日を決めているが、本人の都合により順番の変更は行っている。その場合は、予め了解を得ている。	失敗や特別な場合を除き、平等になる様、共用スペースにボードを吊り下げ、利用者の名前を並べて、順送りにして入浴してもらっている。名札の入れ替えは、利用者が行ってくれている。拒否された方には、気長に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝、入床は一人ひとり自由にして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各スタッフが処方箋で把握している。また服薬は直接手渡し、飲んだ事を目で確認している。副作用による変化の有無については、特に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員とは言えないが、お手伝いを一緒にして頂いたり等、日常的な役割をして頂いている方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・散歩等、極力戸外に出れるよう努めている。また、年間の恒例行事や他施設の行事に参加し、出かけられるよう支援している	悪天候を除き、ほぼ毎朝、早晩の職員と一緒に、公園の周りを一周し、午後からはスーパーへも出かけている。利用者のペースや希望に合わせ、外出支援を行っている。家族との外出も、週2回の方から月1回位の方まで幅広い。家族が来られない利用者は、職員が付き添って外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人で管理出来る方は、所持して頂いているが、困難な方は、職員が管理し、必要な物、欲しい物に関しては、一緒に買い物に行っている。管理方法の取り決めは、入居時家族に相談している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がしたいとの申し出があった場合は、掛けて頂いている。手紙は、年賀状くらいだが、受け取った場合には、返事を書くよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・居間・フロアの絵画は、季節によって変更し、その他飾りつけ・お花を生け、季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	コスモスの花が飾ってあり、季節感が感じられた。共用スペースに利用者の作品がある。習字や絵画・折り紙が掛けてあり、雰囲気も和む。トイレの使用中の表示も大きく分かり易く工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では、会話や工作等をして頂き、コミュニケーションの場となっている。ソファでは、テレビを観たり会話をしたり、ゆったり過ごして頂いている、居室では独りになれ、好きに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を、自由に持ってきて頂いて、個性のある部屋になっている。	家族と相談しながら、使い慣れたタンスや仏壇を配置し、それぞれ個性のある部屋になっている。家族の写真や好きな犬の置物や写真に囲まれ、居心地良く、清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の掃除、テーブル拭き、カレンダーの日めくり、毎日の食事のメニュー書き等、一人ひとりの出来ることを、無理をしない程度で、行っている。またトイレには、使用中の札を掛け、混乱しないようにしている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームよろこび

目標達成計画

作成日: 平成21年10月27日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	申し送りにより連絡事項が伝わらないことがあった	伝わらないことがないようにする	今まで以上に口頭での申し送り、連絡ノートを徹底させる	1ヶ月
2	4	名古屋市に対し、日頃の活動状況を伝える機会が少ない	機会を増やす	1回/月、定期的に報告に出向く合同会議の報告に行く	12ヶ月
3	12	ターミナルケアに関する具体的な取り組みの取り決めがない	取り決めを作り、看取りが発生した時に備える	取り決めを作るとともに、職員の看取りに対する心の準備に関する教育を行う	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月